

温

おん

(思いやりのある子)

強

ごう

(がんばり抜く子)

活

かつ

(進んで学ぶ子)

山口市立小郡小学校
2019年度 校長室だより

第44号

〈R.2 3.30〉

校長室だより、最終号です。

3年間合わせて132号となりました。子どもたちの頑張っている様子や、学校の取組、校長の考えなどをお伝えしたくて書いてきました。「キラリ小郡っ子」などで、子どもたちの素敵な姿を紹介することで、その子たちを褒める機会としたり、良さを学校全体に広めたりしていきたいという思いもありました。

保護者の方にお会いした時や、アンケートに書かれた内容から、読んでいただいていることが伝わってきて、励みになりました。

3年前、平成29年の「温 強 活」第1号でこんなことを書いていました。

始業式では、次のような話をしました。

転入生以外の人に聞きます。小郡小学校がいい学校だと思う人？ そして、小郡小学校のことが好きな人？ (ほとんどの子どもたちの手が挙がりました。素晴らしいことです。)

校長先生は、小郡小学校のことを今は好きでもきらいでもありません。だって、小郡小学校の中身が何もわからないからです。でも、これから皆さんと接しながら、小郡小学校を大好きになっていきたいと思っています。そうなると思っています。一緒に大好きな小郡小学校を創っていきましょう。

あれから3年間。今では本当に小郡小学校のことが大好きです。学校だより「そよげ風」3月号に弁当箱の話を書きましたが、弁当箱が立派なだけでなく、中身の良さを多く感じたからです。優しい子どもが多いです。礼儀正しい子どもも多いです。この中身の良さは子ども、保護者、地域、教職員のみんなで作ってきたものだと思います。大切にしていってほしいです。

母校への思い

私の母校は、大内小学校です。大内小学校には、グラウンドの真ん中に大きなプラタナスの木が3本あって、それがシンボルでした。校歌の歌詞にもなっていました。その大切な木が台風で1本ずつ倒れていき、最後の木が、私が高校生の時とうとう倒れてしまいました。「プラタナスが倒れたらいい」という噂は、まだ携帯電話もなかった時代ですが、またたく間に広がりました。私もそうですが、多くの卒業生が、久しぶりに母校を訪れてグラウンドに横たわっている巨木に出会い、悲しみました。母校とはそういう存在です。

また、教員となって38年の間に縁があった10校の学校にも、それぞれ思い出があり、訪れると懐かしさでいっぱいになります。その中でも、最後の3年間を過ごした小郡小学校は、第2の母校とも思える特別な存在となりました。子どもたちの姿に癒されることも多く、幸せな3年間でした。おやじの会の皆さんとの付き合いも楽しかったです。保護者の皆様、大変お世話になりました。これからも小郡小学校を応援しています。